

事務事業名	道路施設整備事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課
政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉	所属G	公共土木G	課長名	松村直樹
施策名	〈12〉道路の整備	担当者名	石原裕太	電話番号	0854-40-1063
目的・対象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。	(内線)	2473
基本事業	〈035〉道路の維持管理	予算科目	0:140:0:2	事業名	道路施設管理事業
目的・対象	道路利用者	意図	安全に移動できる。	事業名	道路施設整備事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
道路利用者	市内を安全で迅速に移動できるようにする。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(H25 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	・道路維持管理計画に基づき、修繕箇所を毎年度ローリングによる評価により優先度を決定する。 ・優先度の高いものから当該年度修繕工事箇所を選定し、修繕を行う。 ・毎年度、新規修繕箇所を加味した道路維持管理計画を策定し、修繕箇所のローリングによる再評価を行う。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
市道神原企業団地1号線舗装工事 L=178m 市道佐世線舗装工事 L=390m 市道南村1号線舗装工事 L=140m 市道矢入線舗装工事 L=184m 市道新庄温泉線側溝整備工事 L=67.5m	・一般財源のみで開始した事業であるが、舗装修繕は、交付金の対象外となったため、この事業で特定財源(辺地債、合併特例債など)を活用し修繕を行っている。また、局所的な改良についても計画的な事業実施を行っている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	63.9	66.8	63.7	63.7
生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	68.4	66.5	59.5	59.5

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
【合併特例債分】 神原企業団地1号線舗装工事10,523千円 佐世線舗装工事 12,745千円 南村1号線舗装工事 7,767千円 新庄温泉線側溝整備工事 4,868千円 【辺地債分】 矢入線舗装工事 10,481千円 【事務費】122千円 【合計】46,506千円 【地方債】合併特例債、辺地債	財源内訳	国庫支出金 県支出金 地方債 その他 一般財源	千円 千円 千円 千円 千円		11,900 44,500 83	59,800 1,800
	事業費計	千円	0	11,983	46,506	61,600

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	路面性状調査の結果から要対策箇所の舗装を修繕することで、健全な状態に保つことで長寿命化が図れた。
② 事業実施するうえでの課題	・局部改良的な要望箇所については、今後も有利な財源を活用しながら、継続して計画的に整備を行っていく必要がある。 ・舗装修繕については、メンテナンスサイクル(点検・診断・措置・記録)を構築し、ライフサイクルコストの縮減を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・R元年度～R6年度にかけて、2巡目の道路ストック点検(路面性状調査)をし、健全度判定を行い、要対策の舗装修繕を図る。 ・道路維持管理計画に基づき、計画的に特定財源を活用し、事業の完了を図る。 ・道路改良事業で実施できない箇所は、本事業で検討し対応していく。